

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和3年(2021年)

2-3月号

(通巻 192号)

2020年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

ウラギンシジミ

成虫で越冬する蝶です。雪の日、心配になつて見てみたら、雪が積もったアカガシの木の、定位置に無事でいました。

P1 ☀️ いきもの写真館
ウラギンシジミ

P2 / 3 ☀️ センサーカメラの記録
2020年2月
～2020年3月

P4 ☀️ いちかわの植物 30年
タネツケバナ
ムラサキサギゴケ

P5 ☀️ くすのきのあるバス通りから
早春の真間川散歩

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
冬眠させない カエルの飼育

P7 ☀️ わたしの観察ノート
11～12月の記録

P8 ☀️ ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。



センサーカメラの記録

(2020年2月～3月)

自然博物館では、長田谷津（大町公園自然観察園）の斜面林内にセンサーカメラ（自動撮影装置）を2か所、設置しています。1か所は人工的に作った水場、もう1か所は「けもの道」です。記録は動画ですが、ここでは静止画像を切り取って紹介していきます。（自然博物館のウェブサイト動画の公開を始めました）



オオタカ

(2020年3月7日 16時14分)

前年の7月を最後に現れなかったオオタカが再び撮影された。ただ、7月まで写っていたのは、体色が、濃い灰色と白を基調にした成鳥だが、今回は褐色を基調にした幼鳥タイプ。同じ場所に複数来ている、あるいは年によって個体の入れ替わりがあるということだろう。

シメ

(2020年2月11日 10時55分)

シメは冬の長田谷津では決して珍しくないが、2020年2月から3月の間で写ったのは、数日だけだった。冬はカケスが水場を占領することが多く、実際、シメがカケスに追い払われる場面も写っていた。

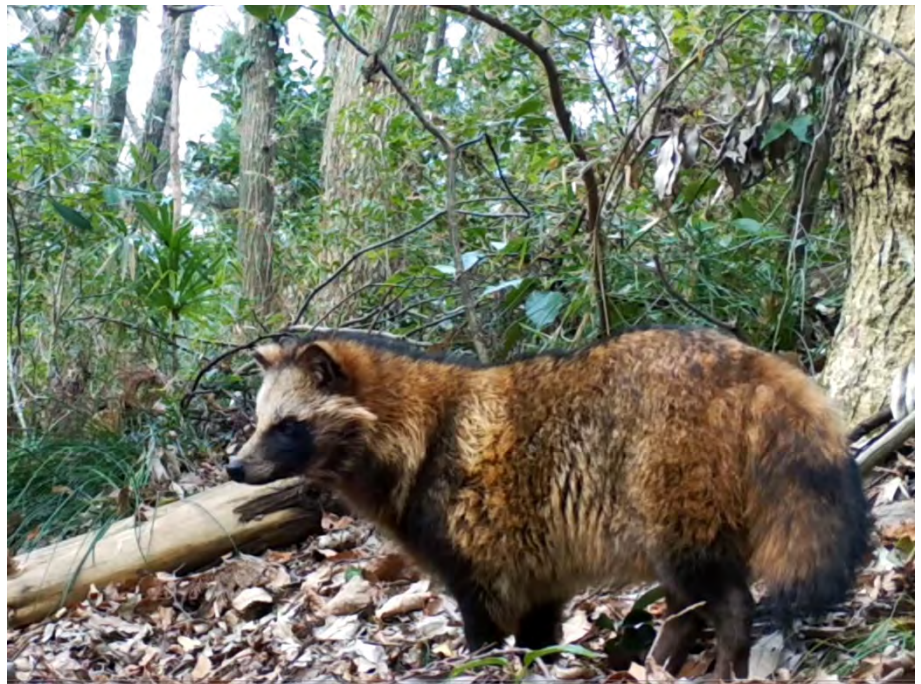




ノウサギ

(2020年2月24日 19時59分)

この場所で写るノウサギについては
 個体識別できるような外見的特
 徴が見当たらないが、同一個体だろ
 うと推測している。ただ、一頭では絶
 滅してしまうので、子ウサギが写れば
 と願っている。(夜間赤外線撮影)



タヌキ

(2020年2月29日 8時52分)

長田谷津では、ともかくタヌキがよく
 写る。日中、お客さんの前に姿を現
 すこともあるくらいだ。子タヌキも、
 2年続けて複数撮影された。個体同
 士の血縁関係や他の個体群との関
 係、行動範囲など、興味は尽きない。

2月から3月の撮影記録(種名、西暦の下2桁と月日。ただし3月は20日まで)

哺乳類

タヌキ:200201,200202,200205,200207,200208,200209,200210,200211,200212,200213,200214,200215,
 200216,200218,200220,200221,200222,200223,200224,200225,200226,200227,200228,200229,
 200302,200303,200304,200305,200306,200307,200308,200309,200310,200311,200312,200313

ネコ:200223,200303,200313

ノウサギ:200224

鳥類

オオタカ:200306,200307

カケス:200203,200205,200207,200208,200210,200211,200214,200215,200224,200228, 200301,200311

キジバト:200224

シジュウカラ:200202,200203,200210

シメ: 200205,200208,200210,200211,200214

シロハラ: 200203,200205,200210,200224,200229,200309,200311

ハシブトガラス:200201,200224,200226,200303,200306

ヒヨドリ:200207,200208,200211,200214,200228,200229,200301,200306,200311,200312

ルリビタキ:200201,200217

いちかわの植物 30 年

自然博物館の 30 年あまりの活動で得られた写真を用いて
市川市域の植物を紹介します。

タネツケバナ

田んぼは特殊な環境です。稲作に合わせて、常に人の手で管理されるからです。そのため、稲作のスケジュールに合った生活サイクルの植物だけが生えることができます。その代表がタネツケバナです。

タネツケバナは、田が耕される前に花を咲かせます。タネをこぼすと枯れてしまい、タネは、田に水が張られる時期は泥のなかで眠ります。そして水が抜かれ稲刈りも終わり、作業が入らなくなったところに発芽します。冬の間は少しずつ育ち、春、一気に花を咲かせます。田んぼがなくなった市川市域では、珍しい植物になりました。



タネツケバナ(1986 年 4 月 21 日)
北方町 4 丁目。最近は、よく似た外来種が公園の草地などでよくみられる。

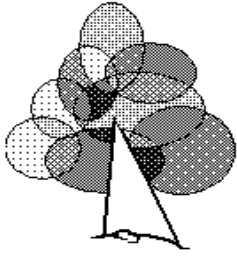
ムラサキサギゴケ

ムラサキサギゴケも、田んぼを代表する植物です。ただ、タネツケバナと異なり、畔（あぜ）で群落を作ります。同じ田んぼでも、稲を育てる面と畔では環境が大きく異なります。畔は頻りに草刈りされますが、耕されることはありません。なので、湿った明るい草地の環境です。稲を育てる面は草取りされるので一年草（越年草を含む）しか生えませんが、畔には多年草が生えます。ムラサキサギゴケやオオジシバリ、スイバ、ギシギシ、ヨメナなどです。根を張る多年草が、畔が崩れるのを防ぎます。

ムラサキサギゴケも、田んぼとともに見なくなりました。庭で見かけるのは、よく似たトキワハゼです。



ムラサキサギゴケ(1986 年 4 月 21 日)
北方町 4 丁目。トキワハゼよりも花が大きく、紫色も濃い。



早春の真間川散歩

真間川の浅間橋から須和田橋まで歩きました。サクラの木に、首の後ろがきれいな黄緑の鳥がいました。こちらを向くとネクタイが見え、シジュウカラだとわかりました。こんなにきれいな黄緑色だったなんて、気が付きませんでした。5、6羽のカルガモ？が流れに逆らって、一生懸命な足の動きが見えました。たまに何かついばんだりしていました。自然博の方によると「満月だから、干潮で流れが強かったのでしょう」とのことでした。

ロウバイと紅梅が満開、ボケとユキヤナギが少し咲き出し、ジンチョウゲやコブシの蕾はまだまだ。日向のホトケノザとヒメオドリコソウも小さな花がやっとなです。季節を感じる木や草がある家が、改築や分譲で庭がない家になり、あっても、はやりの植栽に代わり残念です。

市川病院の隣の田んぼと畑で、カラスが飛び立つと数羽のハトが慌てて移動し、ハトがいた所にスズメが群がりました。餌になるものがそこにはあるのですね。

(M. M.)



△ シジュウカラ。矢印のところが黄緑色



△ ネクタイと呼ばれる黒い模様

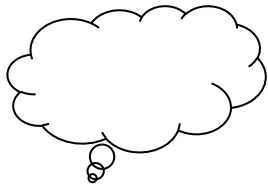


△ ロウバイ



△ ジンチョウゲ

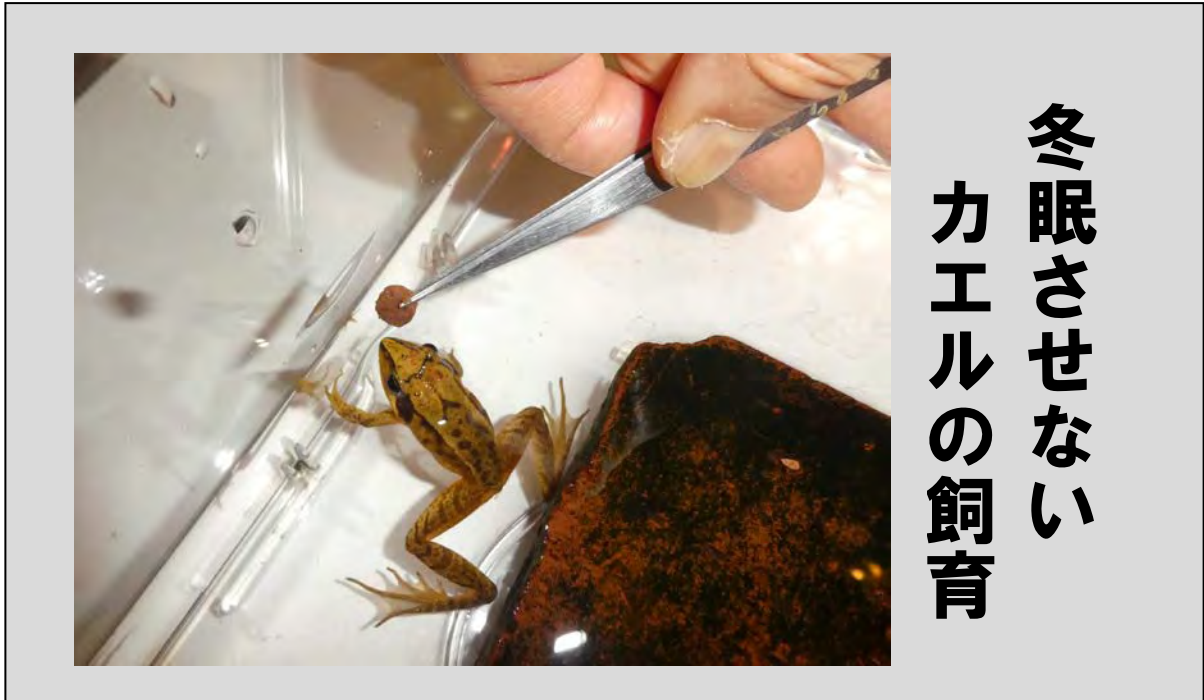
写真 自然博物館



展示室

No.36

飼育生物の話題



冬眠させない カエルの飼育

自然博物館では、カエルを継続的に飼育展示しています。特にニホンアカガエルは隣接する自然観察園で産卵するので、卵からはじまって、おたまじゃくし、カエルと成長の過程を見られるようにしています。

カエルの餌は生き餌です。春から秋は小さなバッタやハエを捕まえることができますが、冬は困難です。かといって冬眠させると展示にならないし、冬眠中の事故も心配です。なので、冬の間は人工飼料を与えています。

当館で使うのは、キャットフィッシュ（鑑賞用のナマズ）の餌です。直径 5mm ほどの円盤状で、肉っぽいにおいがします（ナマズは肉食）。それを水でふやかしてから、カエルに与えます。生き餌を与える季節から少しずつ慣らしていきます。そのうち、食いつくようになります（右写真）。

人工飼料に慣れると、忙しくて餌を捕りに行けない時でも安心です。ただ、餌やりは人とカエルの息が合わないと失敗します。人間側の熟練も求められます。



わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・昨日の午後と今日の午前に小学生と自然観察をした時に、児童がタヌキを見つけて大喜びでした(11/11)。今年生まれの子タヌキのようです。園路から1メートルぐらいのところにおいて、園路の上で鈴なりで騒いでいる人間の子どもたちを見上げていました。

宮橋美弥子(自然博物館)

- ・長田谷津の斜面林に何本かアカシデがあります。紅葉のきれいな木で、いい具合に色づいていました(11/17)。

金子謙一(自然博物館)

- ・観察園のサンショウの葉が落ちました。枝だけになったサンショウの枝に、クロアゲハの蛹がついていました(12/4)。葉が無いので見つけやすくなっています。
- ・園路の脇のよく小鳥が水浴びをする浅い水路でシロハラが水浴びを始めると、5分ほどの間に、シジュウカラ、アオジ、ウソ、ヒヨドリ、ミソサザイが同じ水場に降りてきて水飲みや水浴びをしていました(12/26)。天敵が怖いのか、他の鳥がいると安心するのか、同じタイミングで水場に降りてくる事があるようです。

以上 稲村優一(自然博物館)

- ・バラ園のそばで越冬しているムラサキツバメ3頭は園路のすぐそばです(12/30)。前日は日を浴びて1頭が飛びましたが、また戻ってきたようです。

この日は雨降りで、うまく雨があたらないように葉陰で越冬していることが理解できました。撮影のために手前の葉を取るようなことをすると、雨に直撃されることになります。

金子謙一

◆大野町より

- ・駒形神社前の住宅地で、雄のジョウビタキを見ました(11/13)。秋から冬に移り変わったと感じます。

須藤治(自然博物館)

- ・市川大野駅の上空をツグミが鳴きながら飛んでいました(11/13)。

◆大町より

- ・動物園内の道に見なれない小さな糞虫がひっくり返っていました(11/13)。捕まえて見ると、オレンジ色と黒色をしていました。博物館に持って帰り調べてみるとムネアカセンチュウガネでした。ムネアカセンチュウガネは数が減っていると言われている種類だそうです。

◆じゅんさい池緑より

- ・じゅんさい池の園路の脇の木に、ツミのオスがとまっていました(11/24)。ヒヨドリが騒いでいました。

以上 稲村優一

朝晩は寒く、日中は暖かで、紅葉が美しい秋でした。12月半ばには一気に真冬になり、空気が冷たく、霜が降り水が凍りました。雨が少なく地面がカラカラなので、落ち葉がいつまでもきれいでした。

自然博物館のwebサイト（ホームページ）を 調べ学習や事前学習にご活用ください

自然博物館のwebサイト（ホームページ）では、つぎのような素材（コンテンツ）をご用意しています。

○ オリジナル動画

- ・グリーンスクールで訪れる大町公園の自然観察園（長田谷津）について、毎月の風景や動植物を動画で紹介しています。
- ・同じく長田谷津について、タヌキやノウサギ、オオタカなど、一般の観察では見られない動物の生態を、センサーカメラで記録した動画で紹介しています。
- ・展示や、学校へ出張授業で用いた教育普及用動画が見られます。現在はアブラコウモリとノコギリガザミの2つのタイトルですが、順次増やしていきます。

○ 自然観察週報

自然博物館の学芸員の観察記録です。1998年からのデータを1年ごとにエクセルのファイルで提供しています。すべて市川市内の情報なので、子どもたちのタブレットにダウンロードして調べたい生き物を種名で絞り込んだり、長田谷津や江戸川放水路など場所で絞り込んだりすることができます。たとえば野鳥の「カシラダカ」で絞り込むと、長田谷津では2011年を最後に記録がありません。その原因をテーマに調べ学習を発展させるのもおもしろいと思います。

○ 自然博物館だより

自然博物館が隔月で発行している読み物です。市川市内の自然の話題を取り上げているほか、分類学や生態学の立場で自然や生き物を解説した記事もあります。最新号および創刊号までのバックナンバーをPDF形式のファイルで提供しています（ダウンロードできます。古い号は準備中です）。自然博物館が発行したものですから、書かれている内容についてお問い合わせいただくことも可能です。記事について子どもたちとメールでやりとりできれば楽しそうです。

○ デジタル展示室

過去の企画展のパネルなどをご覧いただけます。今後、調べ学習に使いやすいように内容を更新していきます。

第33巻 第6号（通巻第192号）
令和3年2月1日 発行
編集・発行/市立市川自然博物館
（市川市教育委員会生涯学習部）
〒272-0801千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477